はじめに

学習の「量」も「質」も

中国の2010年の国内総生産（GDP）が、日本を抜き米国に次いで世界２位になることが確実になった。日本は1968年に西ドイツ（当時）を追い抜いて手にした「世界２位の経済大国」の看板を下ろすことになる。ただ、人口や経済格差を加味すると日本は今でも豊かな国であることには変わりがないと思われるが、数字の上ではそうなってしまったようである。中国に限らず、これからはインドやブラジルなどの国々が世界経済の牽引役を担っていくと考えられる。

また、今春の大学卒業予定者の就職内定率（昨年１２月１日現在）が、68.8％となり、大学生の３人に１人は就職ができないかもしれない状況にある。

かつては、日本人は世界一勤勉であり、勉強量も仕事量も他の国より突出していた。与えられた勉強をしっかりやれば就職でき、仕事をせいいっぱいすることで豊かな生活が保障されてきた。

まじめにこつこつ努力することは、人として一番大切なことであるが、それだけで豊かな日本の未来を築くことができるかというと少し心配になる。

塩津小学校では、ここ３年間算数科を中心として問題解決学習に取り組んできた。百マス計算に代表される反復練習で学習の量を増やすことは**基礎知識**を高める上で必要なことである。しかし、**基礎学力**（自ら学ぶ力）を高めるには、本校で取り組んでいる問題解決学習をおいて他にない。

昨年度に引き続き、外国語活動についても教員全員で研修を行い、検証授業も全員で取り組むなどしてきた。ユニクロや楽天は社内の公用語を英語にしたそうである。その是非はともかく、そういう時代になってきたということである。子ども達の将来を考えれば、コミュニケーション力の素地を養っておくことは必要不可欠である。

実社会では仕事の量よりも質が問われるようになってきた今、私たちは、学校教育においても、学習の質はどうあるべきか真剣に考えていかなければならない。

この冊子は、塩津小学校の職員と児童が学習の「量」だけではなく「質」をどう高めていったかを記したものである。

平成２３年　３月

学校長　上岡　旭